

**平成27年度  
とちぎっ子学習状況調査**

**分析結果**



**下野市教育研究所  
平成27年11月**

# 1 小学校国語

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成27年4月実施 4・5年生）

## （1）学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）  
－同じ（±1ポイント未満）  
▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

国語の全体的傾向（領域別正答率）

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	話す聞く	書く	読む	言語
4年生	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
5年生	○	○	○	○	－	○	○

### <考察>

4年生は「話すこと聞くこと」の他は県平均を5ポイント以上上回っている。「話すこと聞くこと」においては9割近い正答率であり、さらに県平均を上回っていることから、概ね良好といえることができる。しかし、「書く」領域では、県の平均正答率を大きく上回ってはいるが正答率が5割に達しない結果であった。

5年生は全領域においてほぼ県平均と同程度の正答率となった。「書くこと」では県平均を0.1ポイント下回り、正答率でも4割に満たない結果となった。

どちらの学年も「基礎基本」や「言語」は高い正答率になった。特に熟語や慣用句の使い方を問う設問の正答率が高かった。昨年度から加わった「思考・判断・表現」では、どちらも県平均を上回っているが、4年生では6割に達せず、5年生では5割を切る結果となった。

今後、複数の資料から考える力、与えられたテーマに対する記事を条件に合わせて書く力を育てる指導が必要と考えられる。さらに、4年生では、お礼の手紙を、適切な順序と言葉づかいで書く力を育てていくことも必要であろう。

## （2）設問別分析 改善策・対策

各学年において達成率の低かった問題、それらに対する改善策・対策は以下の通りである。

### 4年生

観点別に見ると「書く」の平均正答率が50%に満たなかった。感謝の気持ちを伝える手紙を条件に従って書く問題において、手紙の目的を意識し、適切な言葉の使い方や相手に応じて文末に敬体を使うことができなかった。ほぼ条件通りに書いていても、「手紙」内の言葉や言葉の意味を変えて書いてしまう誤答が多かった。

また、「読み」の問題では、文と文のつながりや場面の移り変わりをとらえることや、表に書かれたメモと文の内容を関係づけて読むことができなかった。

設問7 書くこと お礼の手紙

(略) お礼の手紙を書きましたが、読み返してみても、お礼の言葉を先に書いたほうがよいと気づいたので、文の順番をならべかえることにしました。次の〈注意する点〉にしたがって、文章中の「          」の部分を書き直しましょう。

〈注意する点〉

①「歌を歌ってくれたり、教えてくれたりしたこと」に対するお礼の言葉を、はじめに書くようにしましょう。

②ていねいな言葉づかいになっていない文が一つあるので、正しく書き直しましょう。

(本市正答率：32.0% 県正答率：25.2%)

・条件通りに書いているが、「手紙」内の言葉を言い換えている。

(本市反応率：22.9% 県反応率：18.2%)

・ほぼ条件通りに書いているが、「手紙」内の言葉を意味を変えて書いている場合など。

(本市反応率：21.5% 県反応率：21.8%)

<考察>

〈注意する点〉で指示された事柄は正しく書けていても、それ以外の文について、書き換えてしまったり、転記ミスをしてしまったことなどが誤答の一因として考えられる。

◎学習指導に当たって

低学年では、手紙を書く学習で、書いた手紙で交流する楽しさを感じ取らせる活動を取り入れる。

3年生では、手紙の形式を身に付けさせ、実際の生活場面で活用する言語活動を設定し定着を図る。また手紙に使う語彙を増やすため、次のような資料を提示することも有効と思われる。

前文

学校は、さくらが満開です。(季節の言葉)

いかがおすごしですか。

お願いがあつてお手紙を書きました。

本文

相手に目的が伝わるような文。

相手が読んでうれしくなるような文。

末文

よろしく願いいたします。

お体を大切にしてください。

設問5-(2) 読むこと

この文章を二つの場面に分けると、一つめの場面はどこまでですか。文章中の【1】～【4】の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

(略) 正はそう言うと、ベランダから部屋の中に入ってしまった。【2】

(略) 【3】

でも、次の日、アサガオの葉はもう黄色くかわいていました。

(本市正答率：43.8% 県正答率：40.0%)

<考察>

主人公以外の人物が場所を移動したことを場面が変わったと捉えてしまった、あるいは時間の変化を表す言葉を見落としてしまったと思われる。

◎学習指導に当たって

場面の移り変わりを捉えるためには、登場人物の行動や会話、情景などを基にすることが重要である。そのためには、各場面の様子を的確に捉えるとともに、場面と場面とを関係付けて読む指導が必要である。また、これまで読んできた教科書の文章を使って時間や場所の変化を表す言葉や文、場面についての描写などを取り上げ、場面がどのように変わったのかを読み取らせる指導をすることが大切である。

**5年生**

4年生同様、5年生でも「書く」の平均正答率が低く、30%に届いていない。「話す・聞く」「読む」も60%に達していない。「読む」では、目的や必要に応じて、中心となる語や文を捉えること、叙述を基に読むことの正答率が低かった。「話す・聞く」では発表するために調べたことの要点をまとめて書くことができなかった。「言語についての知識・理解・技能」では、正答率が90%を超えるものが多くよく身に付いていた。

設問4-(3) 読むこと

どうしてねばねばに引っかからないのでしょうか?とありますが、その答えを次の図を使って説明します。あとの〈注意する点〉にしたがって説明する文を書きましょう。

〈注意する点〉

- ①「クモが自分の巣に引っかからないのは、」に続く形で書きはじめ、「からです。」につながるように書きましょう。
- ②図の中のアの糸とイの糸のうち、どちらか一つを取り上げ、説明の中で使いましょう。

(本市正答率：15.4% 県正答率：14.6%)

・正答箇所を書いているが、図の中の言葉を用いた説明が不十分。

(本市反応率：26.0% 県反応率：27.4%)

<考察>

問かけ文に対する答えは見つかりやすかったが、説明のための「アの糸」「イの糸」の読み取りができなかったため、意図する解答ができなかったのであろうと思われる。

◎学習指導に当たって

説明された内容を的確に理解するためには、文章の内容や筆者の考えの中心となる語や文を捉えることが重要である。問い・説明(例文)・まとめ等の文形態を押さえたり、説明文に必要な段落相互の関係を関連づけて読み取らせたりすることが大切である。また、筆者の考えや文全体の要旨を簡単な文でまとめることにも十分に組み込みたい。その際、中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりと内容の整理する活動に取り組ませることが必要である。

#### 設問7 書くこと

あなたが、「宿題は、家に帰ったらすぐにするほうがよい」というテーマでこのコーナーを  
担当するとしたら、どのように書きますか。上の記事を参考にして、次の〈注意する点〉  
にしたがって書きましょう。

#### 〈注意する点〉

- ① 三つの段落に分けて書きましょう。(一段落目は、「なぜなら、」に続けて書きましょう。)
- ② 「たとえば」「だから」の二つの言葉を使いましょう。
- ③ 7行から9行の間(121字から180字の間)で書きましょう。

(本市正答率：37.5% 県正答率：37.6%)

#### <考察>

自分の考えが明確になるように書けなかったり、3つの条件のうち、1つ以上を満たしてい  
ない解答が50%以上を占め、その他にも無解答が11.9%あった。複数の条件に合わせて  
作文を書く経験が少ないため、条件を落としてしまったり、条件の中で自分の考えを伝えるよ  
うに表現することができないと思われる。

#### ◎学習指導に当たって

「書くこと」では、事柄のまとまりを意識して段落相互の関係や接続語に注意させるよ  
うにする。条件として与えられている言葉、表現を適切に使えるように、短文作りや日記、作  
文指導で繰り返して指導することが大切である。その際、自分の考えが明確になるように書く  
ために必要な相互関係を取り上げて指導することが重要である。

## 2 中学校国語

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成27年4月実施 2年生）

### （1）学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）  
 ー同じ（±1ポイント未満）  
 ▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

国語の全体的傾向（領域別正答率）

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	話す 聞く	書く	読む	言語
2年生	○	○	○	○	○	○	○

国語全体の平均正答率を見ると、おおむね良好な結果であった。特に、「読むこと」の領域において県の平均正答率を4ポイント以上上回る解答状況であった。「読むこと」の領域においては、設問の内容を理解し、的確な読み取りができていたといえるであろう。

「文法・語句に関する知識」では、単語の品詞について前年度を大きく下回っているものがあつた。また、「歴史的かなづかい」についても、県平均より大きく下回っているものがあつた。

### （2）設問別分析

①—1「文法・語句に関する問題」—単語について理解している—

3—（1）『青い空を大きな鳥が自由に飛ぶ。』（形容動詞「自由に」を指摘する問題。）

（市内正答率14.5% 県正答率21.4%）

#### ◇分析

正答率は14.5%であり、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について課題がある。

正解は「自由に」が形容動詞の「自由だ」に活用した形であるが、形容動詞の活用を学習する前の調査の実施であったため、県、市内平均ともに低い結果となった。また、「自由」を名詞、「に」を助詞として区切ってしまい、誤答が多くなってしまったと考えられる。

この結果を受けて、調査後に問題、正答の確認を行い、単語の知識の定着を図るために、反復練習用の「フォローアップシート」を課題として取り組ませた。その後、確認のために同様の問題をテストした。結果は、同調査の時の3倍程度の正答率となった。形容動詞の活用を学習した後であったこともあり、正答率が上がったと考えられる。

①—2「文法・語句に関する問題」—単語について理解している—

平成26年度 同等問題

3—（1）『坂の上に大きな白い家がある。』（連体詞「大きな」を指摘する問題。）

（市内正答率 52.2% 今年度比 +37.7%）

#### ◇分析

理由として考えられるのは、単語に区切ったときにわかりにくい形容動詞を使っていた点が挙げられる。また、直後の3-(2)に形容動詞を指摘する問題があったので、それがヒントとなって、解答できたのではないだろうか。

#### <考察>

昨年度との「文法・語句に関する問題」に関しては、内容に難易度の面で大きな差があり比較することが困難である。

文法の学習に関しては、単元だけの学習では定着することが難しい。よって、他の領域を学習している時も、折に触れて、文脈の中で単語について復習したり、品詞のはたらきや活用を確認したりする必要がある。

②「文法・語句に関する問題」－歴史的かなづかいについて理解している－

3-(2)『いはく』(現代かなづかいに直す問題。)

(市内正答率54.9% 県正答率73.0%)

#### ◇分析

古語の読み方に関して、「いはく」について出題されたが、正答率は県平均73.0%に対し、市全体の平均が54.9%であった。誤答の理由としては、設問の「現代かなづかい」という言葉の意味を理解しておらず、「現代かなづかい」ではなく、「いはく」の「意味」を書いた誤答が多かった。

#### <考察>

まず、「歴史的かなづかい」と「現代かなづかい」の言葉の意味を再確認し、「フォローアップシート」を活用して反復練習を行うことが必要である。また、歴史的かなづかいの特徴を確認し、表記と読み方の違いを再確認することが大切である。

#### ◎学習指導に当たって・・・

生徒の日頃の様子を見ると、文章を読む時に、設問で指摘された一線部の前後の文章しか読まない生徒が多く、文章全体から内容を理解して設問に解答することが少ないようである。文章の要旨をおさえて内容を読み取る力を育成するためには、各領域で文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解することが大切だと考える。また、日頃の読書指導から多くの語彙に触れ、豊かな表現力を身につけることが必要である。

さらに、他の教科でも様々な資料を使用する場面があるが、その場合、教科書や参考書などから資料を読み取る場面は少なく、映像を使用することが多い。このことから、映像から得られる情報に慣れ親しんでいる生徒たちにとって、文章を読み取る作業は難しくなっているのかもしれない。今後は、国語の授業だけでなく、他教科でも映像からだけでなく、文章から内容を読み取る力を育成する必要があるといえる。情報化社会が進み、自分たちの知りたいことが瞬時に伝わってしまう現代だからこそ、読書に親しみ、文章を読み取る力を形成することが大切であると考えられる。

### 3 小学校算数

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査 (平成27年4月実施 4・5年生)

#### (1) 本年度の研究について

市内12の小学校の4・5年生で実施した学習状況調査の結果分析を通して、本市児童の算数の学力について考察した。

下野市としてとちぎっ子学習状況調査を行うのは2年目で、今年度も4・5年生においての実施であった。この結果をもとに4・5年生の2学年の解答傾向を見ながら誤答分析を行い、昨年度との比較及びつまづいている内容の確認を行った。

#### 【今年度学習状況調査の結果】

下野市と県平均との比較 (領域別・観点別正答率)

◎大きく上回っている (5ポイント以上) ○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満) ▼大きく下回っている (5ポイント以上)

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	領域別正答率				観点別正答率		
				数と計算	量と測定	図形	数量関係	考え方	技能	知識・理解
4年生	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○
5年生	○	－	○	○	▽	○	○	○	－	○

上記の結果から、4・5年生ともに学習内容を全体的によく理解していると思われる。

しかし、課題となる点もいくつかみられた。4年生では「2つの映画の上映時間を求め、比較することができる」ことにおいて正答率が低かった(43.3%)。また、5年生では「身近にあるものの面積を推察することができる」の問題において正答率が低い結果であった(34.8%)。「時こくと時間」や「身近なものを推察する」問題は昨年度も正答率が低く、改善の必要性があると思われる。

今年度の研究では、正答率の低かった問題に焦点を当てた。市内3校の4・5年生児童に再調査を行い、その結果を分析することによって誤答の原因や傾向を把握し改善のための手だてを考えた。

#### 【今年度焦点を当てた問題】

4年生 あまりを切り上げて処理する問題について判断し、その理由を説明できる。(数と計算)

4年生 2つの映画の上映時間を求め、比較することができる。(量と測定)

5年生 図形の面積を求めたり、身近にあるものの面積を推察したりすることができる。(数量関係)



(2) 取り上げた問題の分析と手だて

○ 第4学年 設問18 「わり算」 (数と計算)

下のような【問題】があります。

【問題】

38人の子どもが、5人がけの長いすにすわっていきます。  
全員がすわるには、5人がけの長いすが何きやくあればよいですか。

ゆうじさんは、この【問題】を次のように考えました。

[ゆうじさんのもとめ方]

式  $38 \div 5 = 7$ あまり3

答え 7きやく

みほさんは、ゆうじさんの答えがまちがっていることを、次のようにせつ明しました。□にあてはまる数やことばを書きましょう。

正しい答えは□アきやくです。  
そのわけは、□イから  
です。



①分析結果

出題のねらい あまりを切り上げて処理する問題について判断し、その理由を説明できる。

問題の内容	領域	市町村正答率	県正答率
わり算	数と計算	77.3%	62.4%

【間違えた理由として考えられること】

- ・わり算の計算力や商についての理解が不十分である。(九九の5・7の段について)
- ・わり算のあまりの処理について判断し、自分なりの言葉で表現する力が不十分である。

②再調査とその結果

再調査問題

① 計算をしましょう。

$39 \div 5 =$

②  $24 \div 5 =$

③  $40 \div 7 =$

② 4年生の35人は、遊園地に来ています。4人乗りの船にみんなが乗るには、船は何そういるでしょうか。

式 \_\_\_\_\_

答え \_\_\_\_\_

③ ○学力調査問題と同じ問題を使用して

38人の子どもが、5人がけの長いすにすわっていきます。

全員がすわるには、5人がけの長いすが何きやくあればよいですか。式と答え、この答えになつたわけを(考え方)を書きましょう。

式 \_\_\_\_\_

答え \_\_\_\_\_

【再調査結果】

問題	①	①	①	②	②	③	③	③
	①	②	③	式	答え	式	答え	説明
正答率	91%	95%	91%	89%	83%	93%	78%	77%
誤答率	9%	5%	9%	11%	17%	7%	22%	23%

【誤答分析】

問題①を見てみると、90%以上の正答率であり、わり算の計算を正確に解くことができる児童が多い。誤答については、九九の5の段・7の段の計算力不足というより、わられる数が多くなればなるほど計算の工程が増え、若干誤答の割合が増したが、あまりのあるわり算の計算はほとんど身につけていることが分かる。問題②では、題意に応じ立式をしているものの、求められている単位で答えられる児童の割合は80%程度となり、誤答に関しては、「全員が乗れるように」という条件を意識せずに、単に計算した商とあまりを答えにしている児童が多かった。また、問題③においては式の正答率は上昇したものの、問題②と同様に計算した商とあまりを答えにしてみたり、単位ミスや記入漏れがみられたりして答えの正答率が下がった。さらに、導いた答えを説明する問題では、わり算の計算の方法（商の立て方・あまりの求め方）や、「○脚必要で○人あまるから」、「計算したから」「考えたから」「数が微妙だから」などの外れな記述が見られ無解答も多く、さらに誤答が増えた。式や答えの意味を問題場面と結び付けて考えたり、その意味を言葉で表現したりする力が不足していると考えられる。

③ 指導の手だて

- (1) 具体的な場面をもとに、式の意味を考え実感を伴った理解をさせる。
- (2) 数学的な表現力の充実。

(1) 問題場面の意味を読み取る活動を重視させる。1つの問題を、絵、言葉、具体物、数直線、図など相互に関連付けて理解できるように、自分の考えた式や答えを様々な方法で説明する活動や、友達の式の意味を学級全体やグループで考えるなど学習活動の深まりや授業中の練り合いを大切にしたい。意図的に話し合う活動を設定し、考えの根拠となる事柄や判断のポイントを聞き合ったり、説明の仕方を学んだりすることで、児童に正確な意味の理解を促すとともに多面的な考えができるようになるものと思われる。

(2) 記述式の問題に無解答が多い状況や、計算はできるが考え方をうまく表現できない児童がいる。自分の言葉で相手に正しく説明ができるよう、日頃から話したり書いたり表現する機会を多くもち説明への抵抗感を少なくさせる。普段の授業から、児童の素朴な表現を算数の用語を用いて表現し直すことも考えられる。算数の用語を用いた的確な表現の仕方に触れ、簡潔に説明できる良さに気付かせたい。また、同じ数字でも数を分解したり合成したり、「たす」ことを「増える」「多く」「追加する」など言葉の表現を増やしたりしながら、自分の言葉で相手に伝える意欲を高めていきたい。

○ 第4学年 設問19 (1) 「時くと時間」 (量と測定)

ゆうたさんは、えい画を見に行きます。アニメえい画か動物えい画を、見ようと思っています。ゆうたさんは、2種類のえい画の上えい時間を、それぞれ調べました。

アニメえい画 [上えい時間]

1回目 午前 9時45分～午前11時20分 2回目 午前11時35分～午後 1時10分  
3回目 午後 1時30分～午後 3時 5分 4回目 午後 3時20分～午後 4時55分

動物えい画 [上えい時間]

1回目 午前 9時 5分～午前10時55分 2回目 午前11時15分～午後 1時 5分  
3回目 午後 1時25分～午後 3時15分 4回目 午後 3時35分～午後 5時25分

(1) アニメえい画と動物えい画では、えい画1回分の上えい時間は、どちらがどれだけ長いですか。答えは1～4から1つえらんで、その番号を書きましょう

- 1 アニメえい画のほうが、10分長い。                      2 アニメえい画のほうが、15分長い  
3 動物えい画のほうが、10分長い。                      4 動物えい画のほうが、15分長い。

① 分析結果

出題のねらい 2つの映画の上映時間を求め、比較することができる。

問題の内容	領域	市町村正答率	県正答率
時くと時間	量と測定	43.3%	39.6%

【間違えた理由として考えられること】

- ・時刻と時間の関係性の理解が不十分だった。
- ・2つの映画ともに上映時間が4回ある中で、何回目の時間を使って、それぞれの時間を導き出せばいいかが、わからなかった。
- ・資料や答えを求めるための数字が多く、答える意欲に欠け、無解答者が多かった。

② 再調査とその結果

○学力調査問題と同じ問題を使用して実施

- 1 (1) アニメえい画1回分の上えい時間は、どれだけですか。  
(2) 動物えい画1回分の上えい時間は、どれだけですか。  
(3) アニメえい画と動物えい画では、1回分の上えい時間は、どちらがどれだけ長いですか。

2 たくやさんは、昨日、午後3時15分～午後4時50分まで、野球の練習をしました。今日午後2時10分～午後3時35分まで、野球の練習をしました。

野球の練習をした時間は、どちらがどれだけ長いでしょうか。

答えは1～4から選んで、番号に○をつけましょう。

- 1 昨日の練習時間が、5分長い。                      2 昨日の練習時間が、10分長い。  
3 今日の練習時間が、5分長い。                      4 今日の練習時間が、10分長い。

## 【再調査結果】

問題	1 (1)	1 (2)	1 (3)	2
正答率	48%	61%	36%	70%
誤答率	52%	39%	64%	30%

## 【解答分析】

問題1を見てみると、(1)は正答率が5割を下回るが、(2)は正答率が約6割を超えている。児童は、2つの上映時間を求めるために、何回目の時間を選べば答えが求めやすいかに気づかず、1回目の上映時間から、2つの時間を求めようとする傾向がある。よって、動物映画の上映時間は簡単にひき算で求めることができる。アニメ映画の上映時間は、午前9時45分～午前11時20分という時刻から時間を求めることになるので、答えを求めることが困難になってくる。さらに(3)からわかるように、2つの上映時間から「どちらがどれだけ長いか」という比較した問題になると、正答率は4割弱に下がってしまう。問題2は、問題1(3)と類似問題であるが、上映時間が求めやすく、解答が選択できることもあり、正答率が7割と問題1(3)の正答率を大きく上回った。

問題1(3)から、問題をしっかりと読み、何を答えるべきかをきちんと理解して、答えを正しく求めることが難しいと考えられる。

### ③ 指導の手だて

2つの時刻（上映時間）から、時間を求める方法は数種類あるので、自分の求めやすい方法をきちんと自分自身で理解し、その方法を使えるようにする必要がある。

児童の答えの求め方が多かったものから載せておくので、支援の際には参考にしてほしい。

#### (1) ひき算を使って時間を求める。

(アニメえい画の1回目の上映時間を使って)午前9時45分から午前11時20分までの時間を求めるならば、午前11時20分の1時間を60分と考えて、10時80分とする。

10時80分から9時45分を引いて、1時間35分とする。

#### (2) 時計の絵を書く。または、イメージして、時計の針を進めることによって時間を求める。

#### (3) 数直線を書くことで時間を求める。(その際には、5分おきにめもりを書く児童もいれば、10分おきにめもりを書く児童もいた。)

#### (4) ひき算を使って時間を求める。(くり下がりのないひき算を使って)

(アニメえい画の4回目の上映時間を使って)午後3時20分から午後4時55分までの時間を求めるならば、4時から3時を、55分から20分を簡単に引くことができ、1時間35分と答えることができる。そのためには、4回ある上映時間の中から、答えを求めやすい上映時間を冷静に選択する判断力が必要となってくる。

※ 再調査での正答率は36%であり、学力調査時の正答率が43%より下がってしまった。下がってしまった要因として、学力調査では、答えを番号で選択する問題となっていたが、再調査ではどちらの映画が、どれだけ長いかを具体的な言葉(数字)で書かせたことが考えられる。

正答率は下がったが、アニメえい画と動物えい画の上映時間の違いを求めるためには、それぞれのえい画の上映時間を丁寧にかつ段階的に処理をして、正確に求めさせることが必要となることが確認できた。

※ 再調査から、児童は時間を求める方法を多様に考えることがわかった。しかし、教師側が1人で授業を行う際に、児童1人ひとりがどの部分で躓いているかを把握することは、大変困

難である。計算問題のように公式があるわけではないが、「早く」「正確に」に重点を置かならば、クラス全体に、指導の手だて（４）くり下がりのないひき算を使ってで、数ある上映時間の中から、答えを求めやすい上映時間を冷静に選択する方法を児童に勧めてもよいのではないかと考える。この方法は実生活にも通じる方法と思われる。

○ 第5学年 設問11 「面積・角の大きさ」 (量と測定)

(1) 1辺の長さが9 cmの正方形のタイルの面積は何  $\text{cm}^2$ ですか。

(2) 教室のおよその面積はどれぐらいですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 およそ  $600 \text{ cm}^2$   
 2 およそ  $6 \text{ m}^2$   
 3 およそ  $60 \text{ m}^2$   
 4 およそ  $6 \text{ km}^2$

① 分析結果

出題のねらい (1) 正方形の面積を求めることができる。

(2) 身近にあるものの面積を推察することができる。

問題の内容	領域	市町村正答率	県正答率
面積・角の大きさ	量と測定	(1) 64.4% (2) 34.8%	(1) 69.4% (2) 39.6%

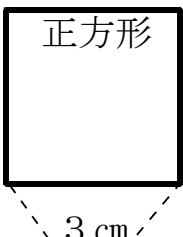
【間違えた理由として考えられること】

- ・簡単な図形をイメージ化する力が不足している。
- ・長さや面積などが感覚的にとらえることができていない。

② 再調査とその結果

再調査問題

1 面積を求めよう。



式)

答え) \_\_\_\_\_

2 ( ) にあてはまる単位を書きましょう。

(1) 教室のてんじょうまでの高さ 3 ( )  
 (2) 赤えんぴつの長さ 18 ( )  
 (3) ノートのあつさ 3 ( )

3 体育館のおよその面積はどれぐらいですか。番号を書きましょう。

1 およそ  $600 \text{ cm}^2$   
 2 およそ  $60 \text{ m}^2$

3 およそ600m<sup>2</sup>

4 およそ6km<sup>2</sup> 答え)

4 時計が4時を示しているとき、長針～短針（12～4）までの角度は何度ですか。  
番号を書きましょう

1 60°

2 120°

3 180°

4 210°

答え)

### 【再調査結果】

問題	1	2 (1)	2 (2)	2 (3)	3	4
正答率	86%	93%	94%	77%	52%	83%
誤答率	14%	7%	6%	23%	48%	17%

### 【誤答分析】

問題1を見てみると、学力状況調査の問題と大きな差異はないものの、64.4%→86%と正答率が大きく向上している。再調査の問題では、あえて略図をのせた。このことにより、子供たちがイメージ化でき、正答率の向上につながったと考えられる。2～4については、それぞれ長さ、面積、角度を感覚的にとらえる内容の確認である。2（長さ）および4（角度）においては正答率が高いものの、3（面積）においては、学力状況調査の（2）同様、正答率は低い。これは、普段の生活や算数の授業の中で感覚的に身につけていなかったり、計算が必要なためイメージ化できなかったりするためだと考えられる。

### ③ 指導の手だて

- (1) 描かれた問題に取り組むだけでなく、頭の中で図形をイメージ化できるように働きかける。
- (2) 算数の授業や普段の生活の中で、感覚的にとらえることのできる活動を多く取り入れる。

- (1) 問題提示の段階において、子供たちに口頭で伝え簡単な略図を描かせる活動などが有効だと考えられる。また、定規・分度器・コンパスなどの道具を積極的に使い図形を感覚的にとらえたり、自分の考えを言葉で説明し、友達の意見を聞きながらイメージ化したりする活動を充実させる。
- (2) 図形の大小にかかわらず、実際に長さを測ったり、面積を計算したりする体験活動を多く取り入れる。『cm』『cm<sup>2</sup>』は授業で取り上げやすい単位であると考えられるが、『m』『m<sup>2</sup>』は実際の大きさを授業で頻繁に取り上げることは難しい。単元のまとめなどで、運動場や体育館を活用し、楽しみながら体験し感覚的に身に付けることができるようにすることが大切だと考えられる。

## 4 中学校数学

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査 (平成27年4月実施 2年生)

### 【今年度学習状況調査の結果】

下野市と県平均との比較 (領域別・観点別正答率)

◎大きく上回っている (5ポイント以上) ○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満) ▼大きく下回っている (5ポイント以上)

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	領域別正答率				観点別正答率		
				数と式	図形	関数	資料の活用	考え方	技能	知識・理解
2年生	○	－	◎	－	○	－	◎	○	○	○

市内4中学校の学習状況調査の結果分析を通して、課題のある問題を中心にして、本市生徒の数学の学力の現状について分析し、対策について考察した。

○ 問題内容「比例・反比例」(関数)

8 (2) 下の1～4の表の中から、 $y$ は $x$ に反比例するものを選びなさい。答えは1～4から1つ選びなさい。

<b>1</b>	$x$		…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…
	$y$		…	9	4	1	0	1	4	9	…
<b>2</b>	$x$		…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…
	$y$		…	3	2	1	0	-1	-2	-3	…
<b>3</b>	$x$		…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…
	$y$		…	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	…
<b>4</b>	$x$		…	-3	-2	-1	0	1	2	3	…
	$y$		…	-2	-3	-6	×	6	3	2	…

#### 【正答率】

55.8% (県正答率61.7%)

#### 【出題のねらい】

反比例の関係を表す表選択することができる。

#### 【求め方】

反比例の関係  $y = \frac{a}{x}$  ( $a = xy$ ) を満たすような表の  $x$ ,  $y$  の値を確認する。

#### 【間違っただ理由として考えられること】

- ・2の反応率が、29.9%であることから減少関数は反比例、増加関数は比例であると単純に考える傾向が見える。
- ・反比例の特徴である「 $x = 0$ は考えない」という意味の理解がなされていない。

【対策】

- ・反比例の意味を理解する際に、身の周りの事象から反比例の関係であるものを調べさせることが大切である。その際、表やグラフから式を導き出す経験積ませることが必要である。
- ・小学校での既習事項を想起させると共に、中学校では表から式を、式から表を表現できるようにする。
- ・表やグラフから反比例の特徴を見いだし、より数学的な表現を利用しまとめる。
- ・表の中で、変わる値と変わらない値を見出し「比例定数」の指導を行う。比例と反比例を比較から反比例の特徴に気付かせ、特に  $x = 0$  のときの  $y$  の値のないことに注目させておく。
- ・  $y = \frac{a}{x}$  の式では「 $y$  は  $x$  の関数である」という関数関係を捉えさせ、 $a = xy$  の式では「 $x$  と  $y$  の積が一定である」という関係をつかませ、比例定数の意味の理解を深めらるような指導が必要である。

【対策から考える本課題における授業案】

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 具体的な事象を表に表し式を導き出す。</p> <div data-bbox="172 958 954 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 1 面積が <math>18\text{cm}^2</math> の長方形の横の長さを <math>x\text{cm}</math>、縦の長さを <math>y\text{cm}</math> とする。表の空欄をうめなさい。</p> </div> <div data-bbox="172 1178 954 1357" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 2 表から、<math>x</math> の値が 2 倍、3 倍、4 倍、…になると、<math>y</math> の値はどのように変わりますか。</p> </div> <div data-bbox="172 1397 954 1532" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 3 <math>x</math> と <math>y</math> の関係を式で表しなさい。</p> <p>・ <math>xy = 18</math>, <math>y = 18 / x</math></p> </div> <p>2. 比例と反比例を比較し、反比例の特徴をつかむ。</p> <div data-bbox="172 1751 954 1921" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 4 縦の長さが <math>3\text{cm}</math>、横の長さが <math>x\text{cm}</math> の長方形の面積を <math>y\text{cm}^2</math> とした場合の表と式をかき、課題 1 の表や式と比較しなさい。</p> </div>	<p>・具体的な図をかかせ、長方形の右上の頂点を結ばせ曲線を描かせ、グラフにつなげる。</p> <p>・表から <math>x</math>, <math>y</math> の関係を見いだすために、表を縦や横に読み取る活動をさせる。</p> <p>・「<math>x</math> と <math>y</math> の積が一定である」ことを共通理解させ、比例定数を指導する。</p> <p>・「<math>y</math> を <math>x</math> を使った式で表す」にはどの式が適切かを考えさせる。</p> <p>・比例定数の現れ方の違いに注目させる。(積と商)</p> <p>・比例も反比例も関数である (<math>x</math> の値が決まれば <math>y</math> の値がただ 1 つ決まる) ことを確認する。</p>



○ 問題内容「比例・反比例」(関数)

**8** (3)  $y = 2x$  のグラフをかきなさい。

【正答率】

51.2% (県正答率56.9%)

【出題のねらい】

比例の式から、比例のグラフをかくことができる。

【求め方】

比例のグラフの特徴である「原点を通る直線である」ことを利用し、原点と別の点(座標)を式から見だし、2点を通る直線をひく。

【間違っただ理由として考えられること】

- ・座標の表し方の理解と比例のグラフのかき方に課題がある。
- ・誤答の比例定数  $1/2$  のグラフからは、 $x$  座標と  $y$  座標を逆に捉えていること、また、点のみを表していることから、比例のグラフが点の集合で1つの直線を表すという特徴を理解していないことが考えられる。

【対策】

- ・ $(2, 3)$  のように2つの数の組を ( ) を使って表し、それが座標平面上の1点を表すという座標の表し方は、生徒にとって必要感が希薄であり抽象度が高いことから理解が難しい。身近な例を提示するなど具体例で慣れさせたい。
- ・比例のグラフは、点の集合が1つの直線を構成することを強調して指導する。
- ・比例のグラフの特徴を理解させた後に、書き方の指導では、平面上の直線は2点が決まれば1つに決まるということを取り上げておく。
- ・直線のグラフをかく際に、原点以外のもう1点を決める方法を考えさせ、複数の方法を習得させておく。特に、比例定数のとらえ方の一つである  $x = 1$  のときの  $y$  の値について式や表のどこに現れるのかも踏まえて掴ませておく。

○ 問題内容「平面図形」(図形)

**10** 右の図は、合同な直角二等辺三角形を組み合わせたものです。 $\triangle AOH$  を、線分  $OH$  を対称の軸として対称移動させてから、点  $O$  を回転の中心として右回り(時計の針と同じ向き)に  $180^\circ$  回転移動させると、どの三角形に重なりますか。答えは **1** ~ **4** から1つ選びなさい。

**1**  $\triangle COB$

**2**  $\triangle COD$

**3**  $\triangle EOD$

**4**  $\triangle EOF$

【正答率】

51.0% (県正答率44.1%)

【出題のねらい】

対称移動，回転移動を組み合わせた移動のあと，重なる三角形を選択することができる。

【求め方】

まず， $\triangle AOH$  を，線分  $OH$  を対称の軸として対称移動させるため， $\triangle GOH$  と重なる。さらに，点  $O$  を回転の中心として右回り（時計の針と同じ向き）に  $180^\circ$  回転移動させるため， $\triangle COD$  と重なることになる。対称移動と回転移動の意味を理解している必要がある。

【間違っただ理由として考えられること】

誤答割合

1...5.3%    2...51.0% (正答)    3...33.8%    4...9.9%

- ・3の $\triangle EOD$ を選ぶのは，対称移動せずに， $\triangle AOH$  を  $180^\circ$  回転移動させたと考えられる。2種類の移動の組み合わせも可能であることを確認する必要がある。
- ・4の $\triangle EOF$ を選ぶのは，対称移動後の回転移動で，回転角度が  $90^\circ$  になってしまった。

【対策】

- ・平行移動，対称移動，回転移動のしかたについて理解する。
- ・基本の移動3つを組み合わせた移動を複数考えさせ，様々な視点から考察させる。

【対策から考える本課題における授業案】

学 習 活 動	指導上の留意点
<p>1. 1回の基本移動を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈課題1〉</p> <p>① <math>\triangle AOH</math> を平行移動させると，どの三角形に重なりますか。</p> <p>② <math>\triangle AOH</math> を <math>180^\circ</math> 回転移動させると，どの三角形に重なりますか。</p> <p>③ <math>\triangle AOH</math> を，線分 <math>OH</math> を対称の軸として対称移動させると，どの三角形に重なりますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を準備し，実際に移動させる。</li> <li>・基本の移動について十分に理解させるとともに，移動の性質にも触れる。</li> </ul>
<p>2. 2回の移動の組み合わせを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈課題2〉</p> <p><math>\triangle AOH</math> を，線分 <math>OH</math> を対称の軸として対称移動させてから，点 <math>O</math> を回転の中心として右回り（時計の針を同じ向き）に <math>180^\circ</math> 回転移動させると，どの三角形に重なりますか。</p> </div>	
<p>3. 移動方法を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈課題3〉</p> <p><math>\triangle AOH</math> を <math>\triangle BOC</math> に重ね合わせるには，どのように移動させればよいですか。</p> </div>	

○ 問題内容「資料の活用（資料の活用）」

**15** 志保さんの町では、毎年町内でなわとび大会が行われます。志保さんと同クラスの大介さんと健司さんは、今年の大会で二重とびの部に参加する予定です。二重とびの部は、1分間にとんだ二重とびの回数を記録として順位を決めます。下の2つのヒストグラムは、これまでの2人の練習の結果をまとめたものです。例えば、このヒストグラムから、練習では、大介さんの100回以上105回未満の記録が4回あることがわかります。このとき、あとの問いに答えなさい。

大介さんの練習結果

健司さんの練習結果

(2) 今年の大会で、大介さんと健司さんのうち、どちらの生徒が二重とびの部でよい記録を出せそうかを、志保さんは、2人のヒストグラムをもとに考えてみたいと思いました。2人のヒストグラムを比較して、そこからわかる特徴をもとに、二重とびの部でよい記録を出せそうな生徒を1人選ぶとすると、あなたならどちらの生徒を選びますか。下のア、イからどちらか一方の生徒を選びなさい。また、その生徒を選んだ理由を、2人のヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらの生徒を選んで説明してもかまいません。

【正答率】

40.4%（県正答率32.5%）

①アを選択しての正解率22.4%（県正答率18.5%）

②イを選択しての正解率18.1%（県正答率14.0%）

【出題のねらい】

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

【求め方】

（アを選択した場合）

大介さんの記録の方が健司さんの記録より最大の値を含む階級の階級値が大きいため、大介さんがよい記録を出せそうである。だから、大介さんを選ぶ。

（イを選択した場合）

健司さんの記録の方が大介さんの記録より110回以上の階級の度数の合計が多いので、健司さんがよい記録を出せそうである。だから、健司さんを選ぶ。

【間違った理由として考えられること】

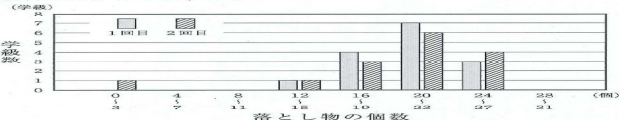
- ・無解答が10.1%ある。説明をすることに抵抗感があり、考えようとする意欲が高まっていないのではないか。
- ・説明したが内容に不備があった生徒は、アとイを合計して49.4%に昇る。グラフの見方や、代表値に関して理解が足りず、数学的な表現を用いて説明ができない生徒が多くいると思われる。平均値・中央値・最頻値などの代表値の意味や、その代表値の使い方が考えられないのではないか。
- ・グラフのどこを見て判断すればよいかのかがわかっていないのではないか。
- ・どちらを選択しても、間違いにならないような問題に慣れていないのではないか。

【対策】

- ・説明をしようとする意欲を高めるためには、「どうして?」「なぜ?」という疑問をもつことが大切である。そこで、課題の工夫（内容、提示方法など）が求められる。
- ・平均値、中央値、最頻値などの代表値の意味を理解することが必要になる。また、その代表値を利用して、どのように説明していけばよいのかを、授業で行う必要がある。

- ・答えというものがなく、他人が納得できればよい問題であるので、他人を納得させるためにどんな言葉を用いて、どのような説明をすればよいのかを考える機会を増やす。
- ・グループ活動等で他の人の考え方を説明する機会を設ける。

【対策から考える本課題における授業案】

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点																		
<p>1. 具体的事象で考える。</p> <p>― 課題 1 ―</p> <div data-bbox="193 479 987 875" data-label="Complex-Block"> <p>5 生活委員会では、落とし物を減らすために、全15学級で落とし物調査を行うことにしました。調査を同じ日数で2回行ったところで、拓也さんと優香さんは、その結果をまとめたグラフにまとめました。優香さんが作ったグラフでは、例えば、落とし物の個数が12個以上15個以下だった学級が、1回目、2回目とも1学級ずつあったことを表しています。</p> <p>拓也さんが作った表</p> <table border="1" data-bbox="352 613 908 696"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文房具</td> <td>201</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>ハンカチ・タオル</td> <td>49</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>53</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>落とし物の合計</td> <td>305</td> <td>299</td> </tr> <tr> <td>落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)</td> <td>20.3</td> <td>19.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>優香さんが作ったグラフ</p>  </div> <p>2. 代表値の求め方や使い方を考え、理解する。</p> <p>― 課題 2 ―</p> <p>優香さんのグラフから、平均値・中央値・最頻値を求めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考える</li> <li>・近くの生徒同士で教え合う。</li> <li>・代表値の使い方について、グループで考える。</li> </ul> <p>3. 数学的な表現を用いた説明の仕方を考える。</p> <p>― 課題 3 ―</p> <p>2人がグラフを見て話し合っています。</p> <p>拓也「落とし物の合計の平均値が20.3個から19.9個に減ったから、1回目より2回目の方が、落とし物の状況はよくなったね。」</p> <p>優香「でも、平均値だけで判断していいのかな。グラフ全体を見ると、よくなったとは言い切れないよ。」</p> <p>【問題】</p> <p>グラフを見ると、優香さんのように2回目の方がよくなったとは言い切れないと主張することもできます。その理由を、優香さんの作ったグラフの1回目と2回目の調査結果を比較して説明しなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で考える。</li> <li>・グループになりお互いの考えを説明しあい、お互いの考えを共有する。</li> </ul>	種類	1回目	2回目	文房具	201	212	ハンカチ・タオル	49	28	その他	53	59	落とし物の合計	305	299	落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)	20.3	19.9	<p>・具体的な事象を準備し、生徒が課題に取り組みやすいようにする。</p> <p>・代表値を求めるうえで、階級値を利用して求めることを知らせる。</p> <p>・それぞれの代表値のわかりやすいところ、わかりにくいところを考えさせる。</p> <p>・他人を納得させるために、どんな言葉を用いればよいのか考えさせる。</p> <p>・全体で共有する際、どの値に注目してそのような判断をしたのかを考えさせる。</p>
種類	1回目	2回目																	
文房具	201	212																	
ハンカチ・タオル	49	28																	
その他	53	59																	
落とし物の合計	305	299																	
落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)	20.3	19.9																	

## 5 中学校社会

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成27年4月実施 2年生）

### （1）学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）  
 -同じ（±1ポイント未満）  
 ▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

#### ①社会の全体正答率と観点別正答率

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	社会的な思考・判断	資料活用の技能	社会的事象の知識・理解
2年生	○	○	○	○	○	○

#### ②社会の領域別正答率

県平均との比較	世界の地域構成	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域	古代までの日本	中世の日本
2年生	○	▽	○	○	○

#### <考察>

世界各地の人々の生活と環境以外の全ての領域・観点において県の平均正答率を上回る結果となった。観点別にみると、「資料活用の技能」が県平均を2.6ポイント上回り、「社会的な思考・判断・表現」は1.9ポイント、「社会事象の知識・理解」は1.8ポイント上回る結果となったが、昨年度に比べて県平均との差は小さくなった。昨年度県平均よりも4ポイント以上高かった「社会的な思考・判断・表現」は、県平均との差が2ポイント以上縮まる結果となった。領域別でみると、「中世の日本」が県平均よりも4.3ポイント上回っている。しかし、「世界各地の人々の生活と環境」は県平均を1.3ポイント下回った。「世界の諸地域」と「中世の日本」の2領域は県平均を上回ったが、正答率は55%を下回っており、特に「中世の日本」は50%にも達していない。

### （2）設問別分析 改善策・対策

達成率の低かった問題、それらに対する改善策・対策は以下の通りである。

#### ○ 問題内容「世界各地の人々の生活と環境」

（本年度本市正答率 52.7% < 昨年度 68.3%）

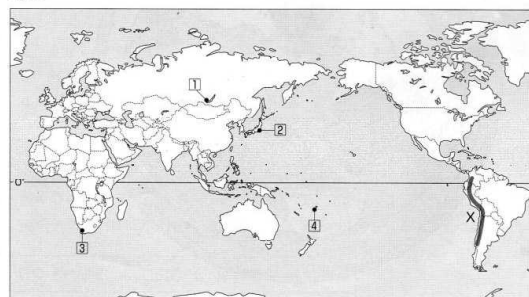
設問2（2）次の地図イを見て、次のページの問いに答えなさい。

- ③ ①のグラフにあてはまる都市を含む地域で見ることができる伝統的な住居の特色として最も適当なものを、次の1～4から1つ選びなさい。

（※①のグラフにあてはまる都市は地図中の4である）

（2） 次の地図イを見て、次のページの問いに答えなさい。

地図イ



- 1 かべを厚い石で固めて白くぬり、窓を小さくした住居である。  
(本市選択率：25.3% 県選択率：20.8%)
- 2 植物の葉を重ねて屋根を造り、かべをなくし、床を高くした住居である。  
(本市正答率：52.7% 県正答率：61.3%)
- 3 木材でわく組を造り、羊毛を使った布でおおった組み立て式の住居である。  
(本市選択率：10.6% 県選択率：8.5%)
- 4 玄関のとびらを厚い板で造り、針葉樹の丸太を組み合わせた住居である。  
(本市選択率：9.7% 県選択率：8.1%)

<考察>

この問題の前の問題(②)で、①のグラフにあてはまる都市を答える問題があり、そこで誤った解答である[3]を選択した生徒が約32%いる。その生徒達はこの問題で1を選んだ可能性が高い。気温の変化から南半球の都市であることは分かったようであるが、降水量を読み取り、それと気温との関係を合わせて考えることに課題があるようである。グラフから2つの条件をそれぞれ読み取り、その内容と知識を結びつけて正しい答えを導き出すという学習過程を大切にされた指導を行うことが大切であると思われる。

また本設問は昨年度よりも15.6ポイントも正答率が下がっているために、昨年度の指導の状況を含めて各校での再確認・再指導が必要な内容であると思われる。

○ 問題内容「世界の諸地域(オセアニア州)」

設問4 オセアニア州について次の問いに答えなさい。

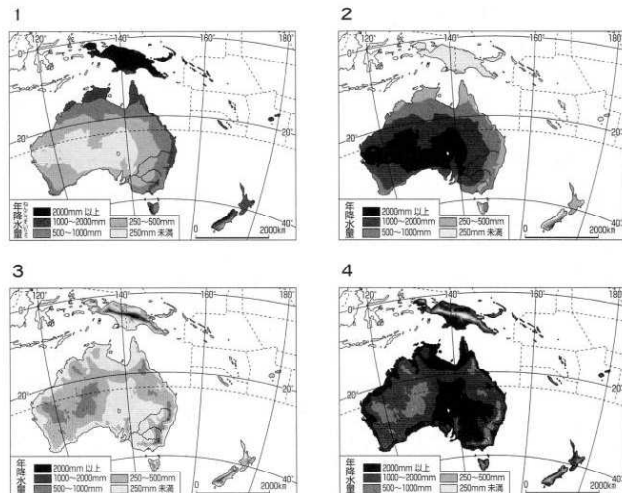
(1) オセアニア州の年降水量を示した地図として正しいものを、次の1～4から1つ選びなさい。

正答 1

(本市正答率：49.5%  
県正答率：51.1%)

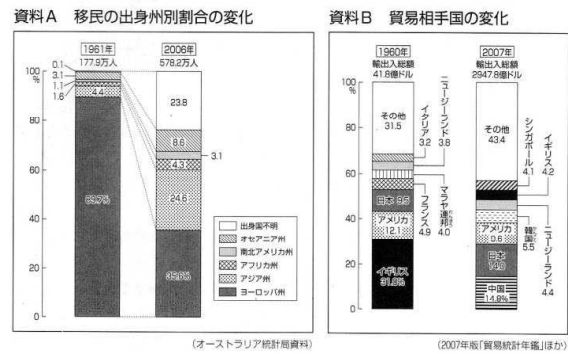
4 オセアニア州について、次の問いに答えなさい。

(1) オセアニア州の年降水量を示した地図として正しいものを、次の1～4から1つ選びなさい。



(3) ②次の資料Aはオーストラリアにくらす移民の出身州別割合の変化を、資料Bはオーストラリアの貿易相手国の変化を示しています。2つの資料からオーストラリアとアジアの国々との結びつきはどのように変化してきたと考えられますか。資料Aと資料Bからわかることにふれ、簡潔に書きなさい。

② 次の資料Aはオーストラリアにくらす移民の出身州別割合の変化を、資料Bはオーストラリアの貿易相手国の変化を示しています。2つの資料からオーストラリアとアジアの国々との結びつきはどのように変化してきたと考えられますか。資料Aと資料Bからわかることにふれ、簡潔に書きなさい。



正答例：アジアの国々からの移民の割合や、アジアの国々との輸出入総額の割合が増え、結びつきは強まったと考えられる。

(本市正答率： 24.1% 県正答率： 23.4%)

(本市無解答率： 20.1% 県無解答率： 27.3%)

<考察>

設問4の(1)と(3)の結果は、県の平均正答率は超えているものの、どちらの問題も50%を下回っており、特に(3)は24%という正答率である。(1)についてはもう一度オセアニア州に関する内容(特に気候について)を再確認する機会を設けることが大切であると思われる。(3)については、複数の資料を目的に沿って活用し、考察する問題であるので、日頃から、標題を読む、個別の情報を読み取る、全体的な傾向を把握する、複数の資料から共通して言えることを見出すなどの活動を、段階的かつ丁寧に指導することが大切である。またこの問題については無解答率が20%を超えており、記述した内容が問いに対する解答として整合性があるかを意識させるためにも、生徒同士での解答の整合性を吟味するなどの活動を取り入れることが大切であると思われる。

○ 他に正答率が50%未満であった設問は、設問6(3)聖徳太子の目指した政治への理解(本市正答率49.3%)、同じく設問6(4)京都の平安京の名称と位置の理解(49.0%)、設問7(2)年代の表し方について理解している(46.6%)、同じく設問7(4)中世の日本の史実について、順番を整理することができる(29.2%)であった。

このうち特に、設問7(2)の「1221年は何世紀ですか」という問いは昨年度も出題されており、昨年度の正答率が44.5%で、本年度はわずかに1.1ポイントの上昇しか見られていない。西暦は100年を1単位として区切って教える時代区画であり、現在が21世紀という表現になることに関連づけて、すぐにでも再指導をする必要がある。

## 6 小学校理科

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成27年4月実施 4・5年生）

### （1）とちぎっ子学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）  
 ー同じ（±1ポイント未満）  
 ▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

理科の全体的傾向（領域別・観点別正答率）

県平均 との 比較	全体 正答率	基礎・ 基本	思考・ 判断・ 表現	領域別正答率		観点別正答率		
				エネ ルギー※	生命・ 地球	科学的な 思考・表現	観察・実 験の技能	自然現象について の知識・理解
4年生	○	○	○	○	○	ー	○	○
5年生	○	ー	○	○	ー	○	○	ー

※5年生は物質含む

理科全体の本市の正答率を見ると、4、5年生ともに全ての領域・観点において県平均正答率を上回っている。

領域別に見ると4年生ではエネルギーと生命・地球の両領域とも正答率が70%を超えており、学習内容を概ね理解できているといえる。それに対し5年生では、県の平均正答率は上回ってはいるものの、2領域とも正答率が60%に達していないため、指導内容の確認も含めて再指導が必要な内容が見受けられる。特に、「電気のはたらき」と「人の体のつくりと運動」の内容は、各校において本調査の問題等を用いての再指導が必要であるといえる。

### （2）設問別分析 改善策・対策

- 4年生 問題の内容「ものと重さ」（物質・エネルギー）

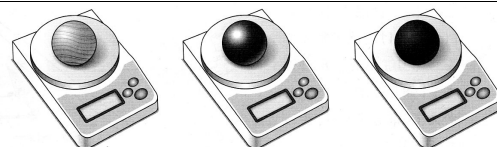
設問1（3）ただしさんは、同じ体積の木のおもり、鉄のおもり、ゴムのおもりを、電子てんびんにしずかにのせて、重さを調べました。このときの調べたけっかを、表にまとめました。

正答 **ア：体積 イ：重さ**

（本市正答率：42.7%

県正答率：45.9%）

\*イの「重さ」は合っているが、アの「体積」を「形」と解答している児童が、本市39.4%、県平均で34.2%いる。



木のおもり

鉄のおもり

ゴムのおもり

表 重さ調べ

	重さ
木のおもり	18g
鉄のおもり	312g
ゴムのおもり	36g



ただしさん

このじっけんのけっかから、ものは（ア）が同じでもしゆるいによって（イ）がちがうことがわかります。

ただしさんの考えの（ア）、（イ）にあてはまることばは、それぞれ何ですか。（答えは解答用紙に書きましょう。）



<考察>

物は体積が同じでも、種類によって重さが違うことを説明する問題である。中学校での密度の考え方につながっていく内容となる。「体積」と答えるべきところを「形」と答えてしまっている児童が約4割いることになる。(1)の問題で粘土の「形」が変わっても重さは変わらない問題を解答しており。その本市正答率は93.7%となっている。このことから、(1)の問題文中にある言葉を使って答えてしまっている児童もいるようであるが、(3)の問題文の中にある「体積」という言葉や「このじっけん」という条件を読み取ることができていないことも正答率の低さに関係しているのではないかとと思われる。授業の中で、学習したことの振り返りをする際に、キーワードとなる言葉を穴埋め式にしてノートに記入させたり、慣れてきたら自分の言葉で文章にして書かせたりという活動を取り入れることで、理科で使う「科学用語」の定着に結びつくと考えられる。

○ 4年生 問題の内容「光のせいしつ」(物質・エネルギー)「身近なしぜんのかんさつ」(生命・宇宙)

設問3 (4) 次の文は、虫めがねを安全に使うときに気をつけることについて、せつ明したものです。( )にあてはまることばを書きましょう。

目をいためるので、ぜったいに虫めがねで( )を見てはいけません。

正答：太陽 (本市正答率：89.0% 県正答率：89.4%)

設問9 (1) 虫めがねの正しい使い方はどれですか。次の1～4から1つえらんで、その番号を書きましょう。

- 1 (本市選択率：11.0% 県選択率：9.6%)
- 2 (本市選択率：6.5% 県選択率：6.7%)
- 3 (本市選択率：34.6% 県選択率：31.1%)
- 4 (本市正答率：44.6% 県正答率：49.1%)



<参考> 中学2年生 設問1 (3)

- 1 (本市選択率：11.9% 県選択率：10.1%)
- 2 (本市正答率：67.9% 県正答率：73.2%)
- 3 (本市選択率：5.8% 県選択率：4.4%)
- 4 (本市選択率：14.3% 県選択率：12.1%)

(3) 花を採取して、そのつくりをルーペで観察しました。ピントを合わせる時のルーペの正しい使い方はどれですか。次の1～4から1つ選びなさい。



<考察>

虫めがねの使い方については、昨年度に引き続き正答率が低い結果となっている。設問3 (3)は正答率は非常に高いが、昨年度に比較すると3.1ポイント下がる結果となっている。設問9 (1)は中学2年生でも出題されている内容となっており、昨年度よりも4.6ポイント上昇してはいるも

の、正答率が50%未満であり、まだまだ課題がある。中学2年生では正答率は約68%にまで伸びてはいるが、それでも県の平均正答率より低い。

中学校では改めて「ルーペ」の使い方を学習する。その学習によりルーペの正しい使い方が再認識され、正答率が上昇していると考えられる。小学校の段階でも、「虫めがね」は「ルーペ」の一種であるとの認識のもと、虫めがねを使う際に、虫めがねと目との距離を一定に保って使用することを意識させることが大切であると考えられる。テレビ番組等で高齢者が虫めがねを新聞を読むときに使うシーン等では、虫めがねと目との距離が大きく離れている様子が放送されたりするが、それは観察をする際の正しい使用方法ではないことを伝えることも大切であると考えられる。

普通の授業では、虫めがねなどの実験・観察器具を使う際にくり返し正しい使い方を説明・確認し、それを実際に操作させる機会を多く設定することが大切である。他の学年でも、もう一度授業の中で虫めがねやルーペの操作法の再確認をする必要がある。

○ その他4年生では設問3(1)鏡で反射した光の明るさ、設問5(4)豆電球の明かりのつきかた、設問6(2)銅の性質による仲間分け、設問10(1)方位磁針の使い方の正答率が50%を下回っており課題がある。特に設問5(4)と設問6(2)は記述式の設定で、正答率が両問題とも25%に達していない。自分の考えを筋道を立てて文章で表現することに課題がある。小学3年生の段階から、段階的に自分の考えを文章でまとめることを取り入れることが必要である。

○ 5年生 問題の内容「電気のはたらき」(物質・エネルギー)

設問5 電気のはたらきについて、次の問題に答えましょう。

①正答：電流

(本市正答率：36.9%)

県正答率：40.7%)

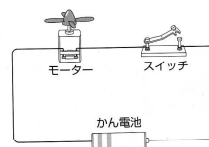
②(作図の問題)

(本市正答率：48.8%)

県正答率：45.7%)

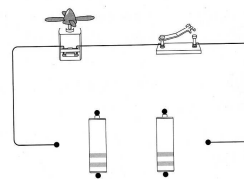
5 電気のはたらきについて、次の問題に答えましょう。

(1) 次の図のようにかん電池とモーターをつなぎ、スイッチを入れたところ、モーターが回りました。



① スイッチを入れると、かん電池の+極からモーターを通して、-極へ電気が流れました。この電気の流れを何といいますか。

② 同じかん電池を2こ使って、上の図のときよりも、モーターを速く回すためには、どう線をどのようにつなげばよいですか。• どうしをつなぐ線をかきましよう。(答えは解答用紙にかきましよう)



<考察>

昨年度も課題のあった内容である。①では「電流」という科学用語の理解が低い。授業の中で科学用語を意識して使い、児童が正しく科学用語を使う機会を確保していく必要がある。

①は昨年度の本市の正答率が39.9%であり、本年度は8.9ポイント上昇し、県の平均正答率も超えている。しかしながら正答率50%に達しておらず、引き続き重点的に指導が必要な内容である。乾電池の直列つなぎ・並列つなぎについては中学2年生でも学習することになるが、いろいろなつなぎ方を試しての活動は小学4年生での活動が中心である。そのため授業の中で、いろいろな条件での回路づくりを取り入れるなどして、実際に操作させて理解を深めさせたい。その際につなぎ方の違いによる「電流」の強さの違いについても関係づけて指導する必要がある。

○ 5年生 問題の内容「人の体のつくりと運動」(生命・地球)

設問6 人の体のつくりと運動について、次の問題に答えましょう。

(1) 図1のように、曲げていた左うでをのぼすと、きん肉ア、イのようすは、それぞれどのようなになりますか。次の1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 きん肉アもきん肉イも、ちぢむ。

(本市選択率： 3.8%  
県選択率： 3.8%)

2 きん肉アもきん肉イも、ゆるむ。

(本市選択率： 7.5%  
県選択率： 5.1%)

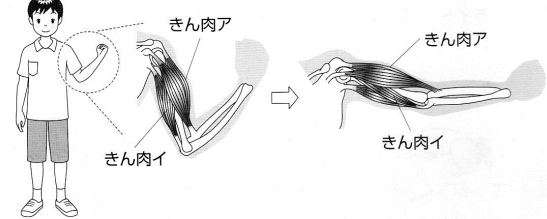
3 きん肉アはちぢむが、きん肉イはゆるむ。

(本市選択率： 43.8% 県選択率： 43.1%)

4 きん肉アはゆるむが、きん肉イはちぢむ。

(本市正答率： 44.4% 県正答率： 47.2%)

図1



(2) たかしさんと、よしえさんは、図2のような人の体のほねのつくりを見て、話し合っています。

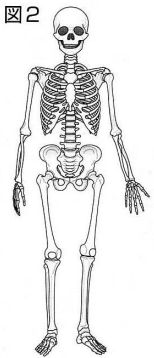
たかしさん 「人の体にはたくさんのほねがあるんですね。うで以外にも、いろいろなところで体を曲げられるようになっているんですね。」

よしえさん 「わたしたちのせなかは、うでとはちがって、まるく曲げることができますね。わたしたちのせなかは、どうしてまるく曲げられるのかしら。」

よしえさんが話したように、せなかはまるく曲げることができます。

その理由を、「関節」ということばを使ってかんたんに書きましょう。

図2



正答例：人のせなかには、**関節**がたくさんあるから。

(本市正答率： 32.7% 県正答率： 37.9%)

<考察>

昨年度も課題のあった内容である。(1)の本年度の市正答率は昨年度の52.4%よりも8.0ポイント低くなっており、県の平均正答率よりも2.8ポイント低くなっている。筋肉の様子と腕の曲げ伸ばしとの関係性の指導内容をもう一度確認する必要がある。(2)では、昨年度よりは2.0ポイント正答率が上がっているものの、県の平均正答率よりも5.2ポイント低い結果となっている。「関節」という言葉を使うのに「骨」の数が多いという解答が多く見られ、問題の答えとして適した解答を作ることができていない。4年生での考察にも示したが、振り返り活動や学習内容をまとめる際に、科学用語を使って、学習した内容を簡潔にまとめることを繰り返し指導していくことが必要である。

○ その他5年生では設問2(1)空気をあたためた時の体積の変化、設問9(2)水が蒸発してそれが水滴に変わることを理解、設問10(1)方位磁針の使い方、設問11(2)②星座早見の持ち方や使い方での市の正答率が50%未満となっており課題である。また、正答率は60%を超えてはいるが、昨年度から17.6ポイントも下がった設問8(2)②については、実際の観測を通して得られた結果をグラフに整理したりして、気温の変化と天気との関係を実感を伴って理解ができるようしなければならない。

## 7 中学校理科

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成27年4月実施 2年生）

### （1）とちぎっ子学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）  
 ー同じ（±1ポイント未満）  
 ▼下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

#### 理科の全体的傾向（領域別・観点別正答率）

県平均との比較	全体正答率	基礎・基本	思考・判断・表現	領域別正答率				観点別正答率		
				身近な物理現象	身の回りの物質	植物の生活と種類	大地の成り立ちと変化	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解
2年生	○	○	○	○	○	—	○	○	—	○

理科全体の平均正答率は県の平均正答率を2ポイント弱上回っており、全ての領域・観点において県平均正答率を上回る状況であった。領域別では、「身近な物理現象」が県の平均正答率を2.2ポイント、「身の回りの物質」が同じく2.5ポイントそれぞれ上回った。昨年度は県平均正答率を6ポイント以上上回っていた「植物の生活と種類」および「大地の成り立ちと変化」では、両領域とも2ポイント未満の上回りとなった。

観点別では「科学的な思考・表現」は県の平均正答率を2.6ポイントほど上回っているが、正答率は50%未満であった。

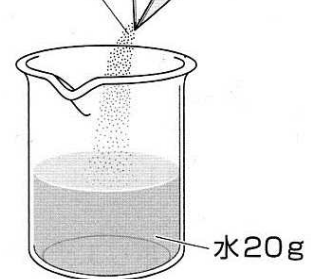
### （2）設問別分析 改善策・対策

- 2年生 問題の内容「水溶液」（身の回りの物質）

設問6 図1のように、水20gが入ったビーカーに塩化ナトリウム5gを入れてよくかき混ぜ、塩化ナトリウムを完全にとかしました。これについて、次の問いに答えなさい。

図1

塩化ナトリウム  
5g



- (1) ビーカー内の塩化ナトリウム水溶液の重量パーセント濃度は何%ですか。

正答：20%（本市正答率：35.2%  
 県正答率：28.8%）

- (2) ビーカー内の塩化ナトリウム水溶液の重量パーセント濃度を1/2にするには、どのようにすればよいですか。次の1～4から1つ選びなさい。

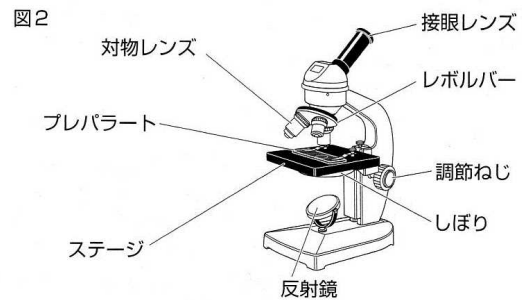
- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 加熱して、水を10g蒸発させる。       | （本市選択率：20.1% 県選択率：18.6%） |
| 2 水を20g加えて、よくかき混ぜる。      | （本市選択率：40.3% 県選択率：41.8%） |
| 3 水を25g加えて、よくかき混ぜる。      | （本市正答率：25.6% 県正答率：25.0%） |
| 4 塩化ナトリウムを5g加えて、よくかき混ぜる。 | （本市選択率：13.5% 県選択率：13.6%） |

<考察>

本設問6は県の平均正答率は超えているものの、正答率が低く、課題のある内容である。「溶質・溶媒・溶液」の意味を理解させ、それらの数値を問題の中から読み取り、式に正しく当てはめて計算を行うという手順を身に付けられるように指導していかなければならない。生徒は割合やパーセントの計算に苦手意識が強い傾向があるので、授業の中でも例題を多く取り入れるなどしたり、折に触れての指導を継続して行っていく必要がある。指導に際しては図を用いて濃度をイメージ化することは有効であると思われる。この他に、圧力や密度、湿度など計算によって求めなければならない量については、その単元だけでなく、技術・家庭や数学等の他教科との連携も密にして指導していく必要がある。

○ 2年生 問題の内容「生物の観察」(植物の生活と種類)

設問8 植物のからだのつくりを観察しました。これについて、次の問いに答えなさい。  
(2) 図2は、ステージ上下式の顕微鏡を表したものです。顕微鏡を使うときの正しい手順になるように、下の□内のA～Dを並べかえて、手順2～5にあてはめなさい。



[顕微鏡の使い方]

- 手順1 対物レンズをもっとも低倍率のものにする。
- 手順2 □ A プレパラートをステージにのせて、クリップでとめる。  
□ B 真横から見ながら、調節ねじを回し、プレパラートと対物レンズをできるだけ近づける。  
□ C 接眼レンズをのぞきながら、反射鏡を調節して、全体が均一に明るく見えるようにする。
- 手順5 □ D 接眼レンズをのぞいて、プレパラートと対物レンズを遠ざけながら、ピントを合わせる。
- 手順6 高倍率にするときは、レボルバーを回して高倍率の対物レンズにし、しぼりを回して見やすい明るさに調節する。

正答：C-A-B-D (本市正答率：38.1% 県正答率：38.0%)

<考察>

本市正答率は、38.1%で、昨年度の正答率50.3%と比較して、12.2ポイント下がる結果となった。顕微鏡については小学校の頃から使い続けている観察器具であるにもかかわらず、観察の正しい手順が定着していない。プレパラートをのせる前に反射鏡を調節して、視野全体が明るく見えるようにすることが定着していないようである。顕微鏡を使っての観察の機会を多く設けることはもちろんであるが、その際の机間指導の中で、手順を確認・再指導していくことが必要である。小学校で顕微鏡を使い始める際にも正しい手順を確認しながら指導していくことが大切である。

顕微鏡以外にも、設問1(3)のルーペの使い方が県の平均正答率を下回っており、設問7(2)のガスバーナーの操作手順も昨年度の正答率よりもわずかながら下がっている。様々な実験・観察器具はなるべく生徒が自分の手で操作できる機会を設定し、頭だけでなく体を使って身に付けられるように配慮していく必要がある。

○ この他に中学校の理科における課題としては、知識・理解に関する内容に定着率の低いものが見られるので、科学用語や定義はきちんと覚えさせ、それを使うような授業展開を工夫して指導していく必要がある。具体的には、設問1(4)の音の「振幅」の理解(どこが振幅と定義されているかの理解：市正答率21.8%)、設問4(3)水圧を矢印で表す書き方の理解(43.9%)、設問7(1)状態変化の定義の理解(45.4%)、設問11(1)深成岩とは何かの理解(43.8)が50%未満の正答率である。また、設問11(2)マグマの粘性と火山の形の関係の理解は正答率は72.7%であるが、昨年度より7.1ポイント下がっている。さらに、思考力を問う問題である、設問3(2)②の鏡に映る範囲では、市の正答率20.8%で、県の平均正答率26.0%より5ポイント以上低くなっている。この問題と同じような実験を行い、実際に生徒に経験させることにより、実感を伴った理解に導けると思われる、各校で家庭科と連携して姿見を借りて実験を行うなど、教科を超えての連携が大いに必要な内容である。

## 8 中学校英語

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成27年4月実施 2年生）

### （1）学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

- ◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）  
 -同じ（±1ポイント未満）  
 ▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

英語の全体的傾向（領域・観点別正答率）

県平均 との 比較	全体 正答率	基礎・ 基本	思考・ 判断・ 表現	領域別正答率			観点別正答率		
				聞く こと	読む こと	書く こと	外国語表 現の能力	外国語理 解の能力	言語や文化の 知識・理解
2年生	○	○	○	○	○	○	○	○	○

英語は、「基礎・基本」に関わる問題の本市正答率は、65%を超えているが、「思考・判断・表現」に関わる問題は、55%を少し超えた程度である。

領域別・観点別に見ると、全ての領域・観点において県平均正答率を上回る結果となった。領域別では、3領域とも県の平均正答率を3ポイント以上上回っており、中でも「書くこと」は4.8ポイント上回っている。しかしながら、「読むこと」の正答率は60%に達しておらず、他の2領域は65%程度の正答率となっている。観点別では、「外国語表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」が県の平均正答率をそれぞれ4ポイント上回っている。

### （2）設問別分析 改善策・対策

各学年において達成率の低かった問題、それらに対する改善策・対策は以下の通りである。

#### ○ 問題内容「対話文の聞き取りと応答」

設問2 これから各場面での短い対話文を3つ放送します。・・・(中略)・・・表現として最も適切なものを、次の1～4から1つずつ選びなさい。対話文は2度言います。

#### (1) <教室で> 問題英文 Then, whose book is it?

- 1 It's in my house. (本市選択率：25.0% 県選択率：21.4%)
- 2 It's Haruka's. (本市正答率：50.6% 県正答率：49.8%)
- 3 I like it. (本市選択率：6.6% 県選択率：9.3%)
- 4 It's a book. (本市選択率：17.4% 県選択率：18.9%)

#### (2) <学校で> 問題英文 Let's do it at my house.

- 1 That's good. (本市正答率：41.9% 県正答率：40.4%)
- 2 Me, too. (本市選択率：23.5% 県選択率：26.1%)
- 3 Yes, it is. (本市選択率：28.3% 県選択率：27.4%)
- 4 It's mine. (本市選択率：6.1% 県選択率：5.7%)

<考察>

対話を聞いて、それに対して適切に答える問題である。(1)は Then, whose book is it? に対する答え、(2)は Let's do it at my house. に対する答えを選択する問題となっている。(1)は昨年度も出題されており、本市の昨年度の正答率は68.8%であり、18.2ポイント低い結果となっている。会話の中で意味を理解し、適切に応答する力を身に付けさせるためには、言語材料に触れさせる機会を多くし、「慣れ」させることが必要となる。授業の中ではスモールトークなどの言語活動を通して、実際に生徒に英語を使わせることが大切であると考えられる。その際に、言語材料をカードやICT機器を使うなどして提示しておくことも有効であると考えられる。

○ 問題内容「文法の理解」

設問4 次の(1)～(5)の対話文が成り立つように、( )に入る最も適切なものを、あとの1～4から1つずつ選びなさい。

(3) Toru: What are you ( ), Meg?

Meg: A book about Japanese music, It's interesting.

Toru: Oh, you like music very much.

1 reading (本市正答率: 34.2% 県正答率: 36.4%)

2 playing (本市選択率: 3.7% 県選択率: 4.7%)

3 listening (本市選択率: 18.1% 県選択率: 29.6%)

4 doing (本市選択率: 44.0% 県選択率: 28.9%)

(5) Yuki: I like basketball. I'm a member of the basketball team.

Jane: ( ) Mika and Emi like basketball, too?

Yuki: Mika likes it, but Emi doesn't like it.

1 Are (本市選択率: 11.9% 県選択率: 9.5%)

2 Did (本市選択率: 8.2% 県選択率: 8.5%)

3 Do (本市正答率: 17.0% 県正答率: 21.6%)

4 Does (本市選択率: 62.5% 県選択率: 59.9%)

<考察>

文法の規則に則って適切な語句を選択する問題である。(3)では選択肢4を本市の生徒達は最も多く選んでおり、県の傾向とも違いを示している。What are you doing.は英会話でよく耳にするフレーズであり、他の選択肢を良く吟味しないで4を選択してしまっているのではないと思われる。後の文をよく読んで、文意として適切であるものを選べるようにならなくてはならない。(5)では、昨年度の本市の正答率から5.7ポイントも下がっている。主語が複数であることを考慮して選択しなければならぬにもかかわらず、次の文中にある doesn't を見て答えてしまっている生徒が多いのではないと思われる。主語が単数であるのか複数であるのかによる文の作り方の違いを再確認・再指導する必要がある。会話の中でも単数と複数の違いを意識した指導を心がけなければならない。



○ 問題内容「場面や条件に応じた英作文」

設問8 グループごとに、新しいALTの先生に英語で質問することになりました。あなたのグループは、次の□の内容について質問をします。質問する内容に従って、あとの□の下線部(1)と(2)に入る適切な表現を、それぞれ3語以上の1文で書きなさい。

【質問する内容】

- ・誕生日
- ・(1) 住んでいるところ
- ・(2) 好きな動物

【質問カード】

- ・ When is your birthday.
- ・ (1) \_\_\_\_\_
- ・ (2) \_\_\_\_\_

(1) 正答例：**Where do you live?**

(本市正答率：29.6% 県正答率：28.8%)

(2) 正答例：**What's your favorite animal?**

(本市正答率：27.4% 県正答率：35.6%)

<考察>

この設問の(1)は若干県の平均正答率を上回ったが、(2)は8.2ポイントも低い結果となった。さらには(1)(2)とも正答率が30%未満という低い正答率である。また無解答率も15%を超えており、3語以上という条件を満たし、質問したい内容に合った英文を作ることは、本市の生徒にとって更なる指導が必要な内容であるといえる。

授業の中で、単語を組み合わせて文を作って質問したりする言語活動や、本設問と同じような場面設定での課題解決的な学習を多くしていくことが必要である。その際には、個人での課題解決と小グループでの課題解決の活動をバランス良く設定し、英作文への抵抗感を強く持つ生徒に対して、小グループでの活動を通して、英作文ができる喜びを体感させながら経験を積み上げていくことが必要であると思われる。

○ その他に本市の正答率が50%未満の設問として、設問5(2)①の対話文やグラフから、テレビを見る生徒の人数を読み取ること(45.7%)、設問6(2)まとまりのある文章を読んだの内容読み取り(44.1%)、同じく設問6(4)文脈を理解し、適切な英文を当てはめる問題(46.7%)が挙げられる。これらの設問の市の正答率は、県の平均正答率は超えているが、さらに生徒達の理解度を高める必要がある内容であることを意識して指導にあたる必要がある。